

みなとメディアミュージアムによる那珂湊第一小学校での WS 報告書

平成 27 年 9 月 10 日

概要

- 開催日時 : 6 月 26 日 授業 2 コマ
- 場所 : 那珂湊第一小学校
- 内容 : 5,6 年生の合計 4 クラスの児童を 3 グループに分け、3 つのワークショップを同時並行で行った
- 企画 : みなとメディアミュージアム(MMM)実行委員会
- 展示 : 8 月 9 日～30 日 アートイベント : みなとメディアミュージアム 2015 にて

みなとメディアミュージアム公式 HP での報告記事

- 6 月 26 日 那珂湊第一小学校にて出前授業を行いました! <http://minato-media-museum.com/0626-minato1-ws/>
- こどもたちの「ヒミツの場所」とは? 43 による『10maps』制作秘話 <http://minato-media-museum.com/43-10maps-ws/>

① MMM スタッフの企画による「みなとのひかり」



概要

那珂湊の生物をかたどった切り絵（魚やタコ、イカなどの海の生き物の他、大ちゃんくじらや駅猫おさむなど地域の名物も取り入れたもの）に蛍光塗料を使った塗り絵を行い、展示した。吊るされた絵にブラックライトを照射して光った絵を鑑賞した。

② MMM 参加作家 榎本奈々子による「Like unrequited love」



概要

読み手を特定しない「宛名の無い手紙」として、読み手のことを想像しながらフィクション・ノンフィクションを織り交ぜた文章を書いた。児童はスタッフとのコミュニケーションを通じて引き出された様々な体験、出来事、思いを手紙に書き起こしていった。一通目の手紙手紙は児童間で匿名状態で交換され、二通目を書くに当たっては誰のものともわからない手紙に対する返事を書くという特殊な体験を行った。

③ MMM 参加作家グループ「43」による「10maps」



概要

作家グループ 43 が WS 運営に実際に関わった企画である。自分の住むまちについて、自身の経験を元に思い入れのある場所を大きな地図をもとに話し合いながら探し出し、その「ヒミツの場所」を地図と文章で表した。地図は作家がイラストも交えた絵画的なものもサンプルとして示し、無機質な地図にとらわれない多様な地図の制作を促した。

以上のように、児童が自ら未知のものを想像したり、記憶をたどったりする内容を盛り込んだ。どの課題も、児童の想像力を掻き立てる素材を用意し、作品を作り上げていく形式とした。

アンケート結果

WS後に児童全員にアンケートをとった。

光る魚の塗り絵「みなとのひかり」について、WSを通じて那珂湊に対して感じたこととしては、

- ▼ 「湊は魚がいっぱいいるからやるんだと思った」
- ▼ 「那珂湊は魚が有名だと感じた」、「魚がたくさんいることがわかった だいちゃんくじらがゆうめいだと分かった」

など、那珂湊の魚という地域資源を意識したコメントが見られた。光る魚の塗り絵という楽しいアート制作活動を通じて、地域の魅力に気づいた子供たちがいたこともわかった。

「Like unrequited love」については、

- ▼ 「知らない人から手紙？返事？と思ったけれど、やってみると、こういう手紙こうかんもおもしろいと思いました。」
- ▼ 「知らない人の手紙を読んでみて、いろいろなことが書いてあったのでよむのが楽しかったです。」

自分の知らない人の手紙を読むというコミュニケーションの面白さに気づいた子供たちが多かった。

「iOMaps」については、

- ▼ 「最近あまり行かなかった場所をいろいろと思い出せて楽しかったです。」
- ▼ 「ヒミツの場所での地図で、イラストや、アレンジを加えたのが楽しかった。」
- ▼ 「みんなときょうりよくしながらかいたこと（が楽しかった）」
- ▼ 「みんなでそうだんして色をぬったり地図をかいたりして楽しかったです」

など、協働作業の楽しさを挙げる子が多く見られた。

特筆すべきは、

- ▼ 「地図を書くときあらためて那珂湊のいろんな所が分かることができた」
- ▼ 「地図をつくってみて、いろいろなお店などがあることが分かった」
- ▼ 「地図をかいている時にひたちなか市がこんな広いということが感じられました。」

と街のことを深く知り認識するプロセスが見られたことだろう。

- ▼ 「那珂湊他の場所も機会があれば調べたいと思いました。」

更に街に対して興味を持った児童もいたことがこのワークショップの成果といえるだろう。実際に作家グループ43のメンバーがワークショップ運営に来ていたことも大きく、非常にワークショップの完成度も高かったことが大きいだろう。

展示結果・結論

各作品すべてが会期中に街中に展示された。「みなとのひかり」は光る魚のインスタレーションとして百華蔵に展示した。

「Like unrequited love」は、那珂湊駅付近の車両ケハ601内に子供たちの手紙を含め、作家本人の手紙や来場者が書き加えた手紙も展示。ワークショップの内容を追体験できるような形で展示した。「iOmaps」はお魚市場近辺のガレージ内を展示の会場とした。子供たちの地図が壁に設置され、また街の大きなまちの航空図には子供たちの秘密の場所がマッピングされている。子供たちが描いた地図は縮小版を用意し、来場者が持っていくことができる。子供たちの純粋な目でまちの魅力を表現した地図を手に取り街を歩くことで、子供たちの街の捉え方を感じることができる。

各々、まちの子供たちの作った作品として高い評価を受けており、特に「iOmaps」についてはMMMの地域賞である「まちづくり3710 実行委員会賞」を受賞した。